

平成28年度 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

被災地交流 避難所開設訓練

2016



《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援
＜全小・中学校＞
 - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流
＜市内5中学校・6小学校(H27)＞
 - ・部活動交流、グランドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動
 - ・プランター花のプレゼント、絵画修復、花火大会
- ③中学生サミットによる支援
 - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
 - ・交流活動の報告会

～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業
＜市内5小学校、3地域＞
 - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業
(文部科学省指定)＜大曲中＞
 - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練
＜H25 平和中、H26 大曲西中、H27 西仙北中＞
- ④市総合防災訓練への参加
＜H23中仙地域、H24南外地域、H25協和地域、H27太田地域＞

～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
 - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
 - ・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
 - ・携帯電話等による電子メール配信システム整備

【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境整備

【今後の方向性】平成28年度の計画

～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

- ・大曲中、大曲小、東大曲小、花館小、四ツ屋小
⇔大船渡市（赤崎地区仮設住宅）
- ・平和中⇔大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・太田中⇔大槌町（大槌学園、仮設住宅）
- ・豊成中⇔石巻市（石巻地区仮設住宅）
- ・南外小・中⇔南三陸町（志津川小・中、仮設住宅）
- ・太田3小⇔仙台市（若林区荒浜地区住民）
- ・豊岡小⇔陸前高田市（気仙小に米を届ける）

～ II・国や市の事業 ～

- ①市総合防災訓練 5月24日（火）
＜大曲地域＞

②だいせん防災教育 「生き抜く力育成」事業

～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	平成28年10月21日（金）
実施場所	大仙市立仙北中学校 校舎
参加者	仙北中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内10中学校生徒代表及び教職員 市内小学校児童希望者 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課

～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・モデル校の実践に中学生サミットメンバー、小学生の希望児童及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付けた児童生徒の育成に “つなげる”
仙北地域の防災モデル実践の成果を市内全域に “広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

被災地交流の概要

大曲中学校（6年目） 大曲小学校、東大曲小学校、花館小学校、四ツ屋小学校（3年目）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
6月8日（水）	岩手県大船渡市 赤崎地区仮設住宅 (大立地区仮設住宅、 後ノ入地区仮設住宅)	大曲中3年生 19名 学区内小学生 8名 小・中職員 10名 計 37名	仮設住宅住民 26名
7月20日（水）	岩手県大船渡市 赤崎地区仮設住宅 (大立地区仮設住宅、 後ノ入地区仮設住宅)	大曲中生徒 22名 学区内小学生 8名 小・中職員 10名 計 40名	赤崎地区公民館元職員 仮設住宅住民 約30名

平和中学校（5年目）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
9月9日（金） *復興支援メッセージ 花火の打ち上げ	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区	平和中3年生有志 10名 職員 4名 保護者 6名 計 20名 ※神岡小（うちわ作成）	地元住民 多数 老人クラブ 多数 若だんなの会 10名
10月21日（金）	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区 大船渡市「津波伝承館」 三陸町恋し浜	全校生徒、職員 124名	老人クラブ 50名 若だんなの会 5名

豊成中学校（初）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
10月29日（土）	宮城県石巻市仮設大橋 団地	全校生徒、職員 81名	地域住民 27名

南外中学校・南外小学校（4年目）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
7月22日（金）	宮城県本吉郡南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校仮設自治会	南外中生徒 5名 南外小6年生 21名 小・中職員 8名 保護者 3名 計 37名	志津川小・中学校教職員、 仮設住宅住民 約20名
10月16日（日）	南外支所 (南外地域祭)	南外中3年生、職員 32名	南三陸自治会の方 4名
10月20日（木） ～21日（金） *1, 2年生は21日 のみ	宮城県本吉郡南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校仮設自治会 さんさん商店街	南外中全校生徒、職員、 地域の方 121名 ※南外小（新米とメッセージ） 南外中（義援金とメッセージ）	志津川小学校及び 志津川中学校職員 4名 仮設住宅住民 120名

太田中学校（6年目）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
5月26日（木） ～27日（金）	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園 吉里吉里仮設住宅 大槌第5仮設団地	太田中1年生全員、職員 49名	仮設住宅住民 約80名
8月11日（木）	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里仮設住宅 大槌第5仮設団地	太田中生徒 62名 学区内小学生 14名 保護者、地域住民 3名 小・中職員 10名 計89名 ※太田東小・太田南小・ 太田北小（うちわ作成）	仮設住宅住民 約80名
9月27日（火）	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園	太田中2年生全員、職員 65名	大槌学園8年生、職員 83名
10月21日（金） ～22日（土）	岩手県上閉伊郡大槌町 大槌学園 シーサイドタウン「マスト」 吉里吉里仮設住宅 大槌第5仮設団地 恋し浜駅、漁港	太田中3年生全員、職員 55名	大槌学園8年生、職員 95名 仮設住宅住民約100名
11月2日（水）	太田中学校	太田中全校生徒、職員	大槌学園9年生、職員 97名

太田東小学校、太田南小学校、太田北小学校（4年目）

期 日	交流の場所	参加者	交流参加者
6月1日（水） *6月1, 2日の3校 合同修学旅行の1日目	宮城県仙台市荒浜地区	太田地区3小の6年生、 職員、サポート隊 59名	ボランティアセンターや 地権者の方々 8名

豊岡小学校（6年目）

期 日	場 所	参加者	交流先
12月中旬 （予定）	（豊岡小学校学校田） *豊岡小産の米を育て て収穫し、交流先に 送る。	豊岡小全校児童	岩手県陸前高田市 気仙小学校

H28年度

赤崎に元気・笑顔届けよう

大仙市立大曲中学校・大曲小学校・花館小学校・東大曲小学校・四ツ屋小学校

第1回赤崎地区支援交流活動

～花で飾ろうプロジェクト～

平成28年6月8日

- 奇跡の一本松見学
- 大立地区、後ノ入地区の仮設住宅訪問
プランター、ベゴニア、土の贈呈
- 壁絵の取り外し



赤崎地区は、岩手県大船渡市の湾を挟んだ反対側にあります。



陸前高田市の奇跡の一本松周辺の復興状況の見学をしました。



大立地区では一昨年の「絵で飾ろうプロジェクト」で贈呈した壁絵をリニューアルするためにとりはずしました。



ベゴニアの苗植え作業を住民と一緒に行いました。プランターは仮設住宅や浴道に置かれました。

第2回赤崎地区支援交流活動

～和みプロジェクト，私やりますプロジェクト～

平成28年7月20日

○元赤崎公民館長吉田さんの講話

○大立地区，後ノ入地区の仮設住宅での活動

壁画の取り付け（大曲中6枚，大曲小2枚，花館小2枚，四ツ屋小1枚，東大曲小1枚）

住宅周辺のクリーンアップ，生活科学部によるお手前披露，合唱部による合唱披露



元公民館長吉田さんから，復興の様子を説明してもらいました。



仮設周辺のゴミ拾いをしました。



生活科学部によるお茶のお手前



合唱部は歌を届けました。



壁画12枚を住宅の壁に飾りました。明るい絵で住民の方々に喜んでもらいました。



平和中学校被災地交流活動 「大槌町吉里吉里地区・大船渡津波伝承館・恋し浜」

全校テーマ「交流の継続 ～絆をつなぐ交流の架け橋～」

①「第5回神岡大槌交流グラウンドゴルフ大会」(1,3年)

大会テーマ「吉里吉里に笑顔の花を咲かせよう」



吉里吉里地区から50名の皆さんに参加いただいて、グラウンドゴルフ大会がスタート。長寿クラブの代表から「楽しみにしていました」と歓迎の言葉。



吉里吉里の方と平中3年生で16のグループを作り、各ホールを廻ってプレー。1年生はパイプイスを運んだり、お茶を出したりしながらサポートです。



1時間という短い時間でしたが、平均スコアで上位の方を表彰。神岡の企業から協賛いただいた品を賞品としてプレゼント。もちろん参加者全員にも協賛品を贈り、神岡の皆さんの気持ちを届けました。



グラウンドゴルフ大会が終わって閉会式。吉里吉里の方からもワカメや手作りの手芸品を全校生徒分づれプレゼントしていただきました。平中からは、復興へのエールを全校で送り、最後は参加者全員の記念撮影で、幕を閉じました。

②「津波伝承館・恋し浜ほたて漁師との交流」(2年)



震災当時の様子を映像と紙芝居で学習。津波による被害の様子と津波の恐ろしさを改めて学習しました。



恋し浜漁港では、地元漁師の方と交流し、被災した当時の漁港とそこから復興に向けた取り組みの様子について、お話を聞きました。そして、復興のシンボルである「恋し浜ほたて」焼き体験をして、美味しくいただきました。

平和中学校被災地交流活動 「第3回神岡大槌交流打ち上げ花火」(大槌町吉里吉里地区)

全校テーマ「交流の継続 ～絆をつなぐ交流の架け橋～」

①「メッセージ入りうちわの配付&打ち上げ花火PR」



神岡小手作りのうちわを吉里吉里の皆さんへ



配ったうちわを持って花火を見に来てくれました。

②「打ち上げ花火の準備と地域の方との交流」



スピーカーを設置して、メッセージを吉里吉里の皆さんに。



吉里吉里の色々な方があいさつに来てくれました・・・。



準備や警備に保護者の皆さんの協力がありました。そして花火打ち上げには、地元神岡の花火師さんの協力が欠かせませんでした。



③「メッセージとともに花火打ち上げ」

平和中や吉里吉里の方から寄せられたメッセージを紹介しながら花火の打ち上げ



鉄クズや古紙を回収して集めた資金で色とりどりの花火を吉里吉里の夜空に打ち上げました！



最後には、花火師さん、吉里吉里の皆さんとペンライトを振って、フィナーレを飾りました！



被災地交流〈大仙市立豊成中学校〉

H28.10.29(土)

◆石巻市立大川小学校(跡地)訪問→慰霊碑献花



大川小学校(跡地)を訪問し、校長先生と3年生の生徒会長が献花し、全員で黙祷を捧げました。

大川小学校の壊れ方を見たり話を聞いたりして、どれだけ大きな被害に遭ったかがわかりました。もし自分が被害を受けたらと考えると怖いと思いました。また、家族がいなくなったら・・・怖い悲しいと思いました。被災地交流活動を通して、地震の怖さや危険さがわかりました。自分も災害に遭ったときは、素早く避難できるようにしたいです。

◆大震災まなびの案内人

石巻市観光協会を通じて、ボランティアガイド「大震災まなびの案内人」を依頼し2台のバスに同乗し、震災の様相や復興の状況を生徒に説明してもらいました。



生徒は、ガイドさんの話に真剣に耳を傾けていました。必要なことはメモしていました。仮設住宅で歌う合唱をバスの中で披露し、ガイドの方々も大変感激していました。熱心な説明で、生徒の学びが深まりました。

◆石巻市立門脇小学校(跡地)訪問



門脇小学校は、震災時津波の被害と同時に火災の被害に遭った学校です。今回の訪問の際は、建築用の網で覆われていました。震災時は、裏の高台(日和山公園)に多くの人が避難し、助かりました。

門脇小学校では、避難訓練を大切にしていたということで、3.11の時は6年生が先頭に立って避難させたということを知り感心しました。自分たちの判断で避難できることは素晴らしいことだと思います。ここから避難訓練はとても大切だということが学べました。

◆石巻市仮設大橋団地訪問・交流活動

被災者の方々が住んでいる仮設大橋団地を訪問し、奉仕活動として除草活動を全校生徒で行いました。





仮設住宅での交流(大仙市紹介)



メッセージ贈呈



円満蔵甚句(2年生)



ロックドンパン(1年生)



NEWソーラン節(3年生)



感動のフィナーレ(全校合唱:「地球星歌」)

私は、大川小学校や津波のあった町をしっかりと見ることはできませんでした。心苦しくてとても辛かったです。亡くなった人達が生きたかった今日をしっかりと生きることが使命だと思いました。自分を信じる。人を信じる。「信じる」ことの大切さがよく分かりました。今の私達に何が出来る。生きるとは何か。改めてよく考えることができました。早く復興できるよういろんなことに協力していきたいです。

被災された方は、みんな笑顔を見せてくれたけど、その笑顔を取り戻すのにどれだけかかったのか考えると、胸が痛くなるけど帰るときに、「ありがとう」、「また来てね」と言ってくださったり、寒いのに手を振って見送りにくださった方々を見て、少しでも勇気づけることができたのなら、自分たちに“何か”ができたのではないかと思います。この体験は私にとって、一番大切なものに気づかされるものだったと思います。

笑顔と思いを届ける 南三陸町との交流 Ⅰ～Ⅲ

大仙市立南外小・中学校被災地交流事業

- ◆交流活動Ⅰ 南三陸町視察・研修(被災地の実際を学ぶ)(7月22日(金))
 - ◇訪問場所…南三陸町, 志津川小・中学校, 仮設集会所
 - ◇視察・研修内容…①南三陸町を現状を見学する ②震災の様子や避難所生活を学ぶ
 - ◇参加者…南外地域・保護者(3名), 南外小6年生(21名), 中学生(5名), 引率(8名)



防災庁舎前で祈りを捧げました



志津川小(上), 中(下)学校で研修しました



仮設の方からも話を聞きました



- ◆交流活動Ⅱ 物産交流(交流・販売を通して互いの地域のおよさを発見する)
 - ◇南外地域祭…南三陸の方と南外中の3年生が南三陸の新鮮な海産物を販売しました。
 - *参加者…南三陸の方(4名), 南外中3年生(27名), 教員(5名)
 - ◇サンサン商店街…南外地域の方と南外中の3年生が南外地域の物産品を販売したり, 南外そばの会の会の試食・販売を手伝いました。
 - *参加者…南外地域の方(15名), 南外中3年生(29名), 教員(6名)

<南外地域祭での交流・販売(10月16日(日))>



新鮮な海産物が飛ぶように売れました!



〈さんさん商店街での交流・販売(10月20日(木))〉



新米、新鮮な野菜、山菜なども完売しました!

◆交流活動Ⅲ 炊き出し体験交流(移転完了で今回が最後の交流となる)(10月21日(金))

- ◇志津川小学校へ…南外小の学習田でとれた新米30kgとメッセージを届けました。
 - ◇志津川中学校へ…南中祭の収益金(義援金)とメッセージを届けました。
 - ◇仮設住民の方へ…キリタンポ鍋、新米のおにぎり等の炊き出しと心温まる交流を行いました。
- *参加者…南外地域の方(35名), 南外中(65名), 教員(18名)



移転の完了で、最後の炊き出し体験交流となりました。心が温まる思い出深い交流となりました。

太田中学校生徒会からの報告

発行：平成28年11月25日（金） 大仙市立太田中学校生徒会

平成28年度の太田中学校の大槌交流活動を紹介します

～岩手県大槌町立大槌学園、大槌町仮設団地の方々との交流から～

今年度の交流活動について

5月26日(木)～27日(金)
1年生全員
「つなげよう ～笑顔と花の架け橋～」

「おらが大槌夢広場」代表の臼澤和行氏より東日本大震災についてのお話を伺いました。命の大切さ、仲間を信じ避難することなど今後の生き方についても深く考えさせられました。また、三陸鉄道震災学習列車に乗車したり、大船渡市の震災ガイドさんから震災についてお話をいただいたりしました。先輩たちよりも震災の記憶がうすい私たちにとって、直接お話を伺うこと、現地を訪問することはとても有意義な学びになりました。仮設団地訪問を行い、8/11のコンサートの案内チラシを配布しながらの交流もしました。



仮設住宅で8/11開催のコンサートのチラシを配布しました。仮設住宅でふるさとの復興を待つ強い気持ちが伝わってきました。

昨年度、贈呈したプリンターを回収しました。きれいに片付けられていて、大槌学園のみなさんの心遣いこうれしくなりました。



7月7日(木) 全校生徒と保護者
「東日本大震災から学んだこと」

講師：遠野まごころネット理事長
臼澤 良一氏

東日本大震災後、遠野地域の方々と協力しながら大槌町復興のためにご尽力していただいている臼澤良一氏より、貴重な講演をいただきました。

大槌町の方々と遠野まごころネットとの関わりについてのお話を伺い、震災直後から支援し続けている、その熱き思いに感動しました。



臼澤氏の温かい人柄と強い気持ちの両面がお話から伝わってきました。

講演会の感想発表では支援や交流で相手の気持ちを尊重することの大切さについて述べられました。



8月11日(木) 執行部、生徒有志、高校生
小・中学校保護者、町内小学校児童有志
「手作りうちわ」と「太田の揚げ干し餅」の配布と

第4回ふれあいミニコンサートの開催

岩手県大槌町吉里吉里と大槌第5地区の約250軒の仮設住宅に太田中全校生徒と太田3小学校の児童が制作したうちわと太田特産の「揚げ干し餅」を届けました。

さらに小学生と中学生で編制した吹奏楽ふれあいミニコンサートを開催しました。住民の方のリクエストをいただき、共に楽しみ合いながら盛り上がることができました。



仮設住宅を一軒ずつ訪問し、うちわと揚げ干し餅を渡しました。太田中のことを待っている方もいました。



小学生と一緒に人気の歌謡曲などを演奏しました。

9月27日(火) 2年生全員
「届けよう太田の花を！！
共に祝おう 新校舎との出会いを」
大槌学園8年生との交流活動

今年度も250個のプランターに赤・白・ピンクのペゴニアを植え、全校生徒で大切に育てました。そして、プランターの輸送には本地域の方々の協力を得て、大槌学園新校舎に届けました。

大槌学園体育館内でエール交換などの交流を行った後、両校が混じったペアで学校敷地内にプランターを設置をしました。新校舎で学ぶ大槌学園生はとても生き生きとしていました。



お互いに会話をしながら協力してプランターを設置しました。校舎も華やかになりました。

メッセージカードが添えられた赤いペゴニア



10月21日(金)~22日(土)
3年生全員
「支援から交流へ
太田の真心を届けよう」
大槌学園文化祭PRと9年生との交流活動

大槌町ショッピングセンターマストにて大槌学園文化祭PR活動を行いました。その後、大槌学園新校舎を訪問し、9年生と一緒によさこいを踊るなど、楽しく交流活動をさせていただきました。交流活動では「太中 YOSAKOI」を披露したり、大槌学園全校生徒の皆さんへ太田の新米、約800kgを贈呈しました。新校舎での文化祭開催に活気づいている姿に応援したいという気持ちますます高まりました。



シーサイドタウン・マストにて「太中 YOSAKOI」を演舞し、たくさんの拍手をいただきました。また、大槌学園祭のプログラム配布もしました。

大槌学園9年生との交流会では互いの生徒同士が入り交じり、笑顔があふれ、楽しく踊る場面もありました。



11月2(水) 全校生徒
「絆 互いのふるさとに想いを寄せて…」
大槌学園9年生全員の来校、そして交流活動

大槌学園9年生87名の生徒が来校してくれました。震災後における「備え」についての語り部プロジェクトを披露してくれました。また、プロジェクトの最後は、合唱も披露してくれて、彼らのふるさとを想う気持ちが強く伝わってきました。

その後、本校3年生全員と太田産食材を多数使った「きりたんぼ鍋」を囲んで、お互いのふるさとについて語り合いながら楽しく昼食をとることができました。

中学生としてのお互いの交流はこれで終わりであっても、心の中ではずっとつながっているということを互いに誓いあうことができた時間でした。



大槌学園語り部プロジェクトでは自分たちがこれからの大槌をつくっていくとしようとする力強い気持ちが伝わってきました。



11月25日(金) 全校生徒
「ふるさとをつなぐ~支援から交流への軌跡~」
大槌交流発表会 チーム太田の取組

報道陣のインタビューに答えながら、きりたんぼ鍋を一緒に食べ、互いのふるさとについて語り合いました。夕方のテレビや翌日の新聞等でこの交流会の様子が紹介されました。

夢大きく 未来へつなぐ心の輪

太田地域連合修学旅行団被災地交流プロジェクト

大仙市立太田南小学校・太田北小学校・太田東小学校

- ◎太田地域では、3小学校合同修学旅行において、平成25年度から被災地に花を植える交流活動を行っている。今年度も、5月20日（金）3校合同で事前学習を行い、交流プロジェクトのキャッチコピーや花壇のデザインを考えた。
- ◎6月1日（水）修学旅行1日目。仙台市荒浜地区で仙台市ボランティアセンターや地権者と一緒に花苗植栽の交流活動を行った。
- ◎3小学校は、この交流活動により子どもたちに被災地の現状を実感させ、太田中学校進学後の本格的な岩手県大槌町支援活動に結びつけていく。

プロジェクトの流れ

事前交流会での合同学習

花壇デザインの募集

キャッチコピーの募集

修学旅行での花植え交流活動

太田中学校と連携した活動

- ・太田子ども会議（児童会・生徒会代表者の合同会議）で被災地交流計画を協議
- ・アルミ缶回収の継続
- ・メッセージうちわの作成
- ・夏季休業中の大槌町訪問へ小学生や保護者の希望者やマーチングバンドが参加
- ・まごころ米の贈呈

花苗植栽交流活動を終えて

太田北小学校 草薙 昂

被災地には津波がきて、もう何もなくてびっくりしました。津波がきて本当に残念だと思いました。津波がくる前は家もあり、その家の前には花もあったけれど、もう何もなかったのがしょうげきてきてでした。だから、元気になってほしいなあと思って花を植えました。植えた花も元気に育ってほしいなあと思いました。

太田北小学校 黒澤 明香里

被災地では、津波のこわさを改めて知りました。たくさんあった木もいっきに無くなったと聞き、しょうげきを受けました。今も仮設住宅に住んでいる人が、まだたくさんいるという事を知りました。私はそんな人達に夢をあげたいと思いながら花を植えました。今私たちが植えた花が元気に育ち、被災地の人に夢をあげているといいなと思いました。



現地の花壇に立てた看板



3校合同事前学習会

活動の様子や振り返り



サポート隊による看板設置と苗並べ



バスの中で震災当時のお話を聞く



ベゴニア220株
 テランセラ220株
 合計440株を
 植えました。



太田東小学校 高橋 柚葵

今年も去年の6年生も行った被災地での花植え活動をしました。今年は「夢大きく未来へつなぐ心の輪」というテーマで活動しました。私もみんなも心をこめて植えることができたと思います。この花だんの私たちが植えたお花を見て、一人でも多くの人が花から元気ももらってくれたらいいなと思いながら植えました。

太田南小学校 倉田 和心

私たちは津波の被害のあった荒浜というところで花植えをしました。近くの荒浜小学校は津波が来た時にゆいっつ残った建物でした。間近で見た時は、骨組みなどが残っていてすごく驚きました。花植えでは「ゆめ」をテーマにしたデザインで植えました。ていねいに心をこめて植えました。被災地の方々にきれいな花を届けられてよかったです。今回の経験や被災地の皆さんへの思いを大切にしたいです。

太田南小学校 石崎 陸翔

ぼくたちは東日本大震災や津波で被害を受けたところに行き、少しでも明るくなれるようにと花植え活動をしました。今年のテーマは「ゆめ」でした。これからやっていきたいことやこうなってほしいというお話を聞いたときに、自分たちもその未来に少しでも近づきたいという気持ちになりました。短い間でしたが少しでも荒浜の人たちに勇気を与える事ができたのでよかったです。

太田南小学校 佐々木 美侑

私たちは津波の被害のあった荒浜というところで「ゆめ」というデザインで花植えをしてきました。そのとき「早く復興してほしい！」という願いで植えてきました。3校合同での荒浜での花植えはみんなが心をこめて花を植えることができ、いいなと思いました。私も心をこめて植えました。今回体験して感じた被災地への思いをこれからも大切にしたいです。



気仙小学校を応援しよう

大仙市立豊岡小学校

「今年もおいしいお米を送るぞ」 ◆全校田植え：平成28年5月27日（金）



地域の人たちの協力で
「うまさピカイチ 岡小田んぼ」に田植え

「型つけ」は、5年生の担当



たくさんのお米が送れるといいね

「いっぱい獲れたぞ！」 ◆全校稲刈り：平成28年9月27日（火）



全校みんなの力をひとつにできました



田んぼを見守る案山子（5年生作）



低学年が「ハサ」まで運びます



とれたお米は、天日で干しています。

「今年も送るぞ 200kg」

◆お米を送ろう：平成28年12月中旬予定

- ★ とれたお米を2kgずつ小分けにして100袋を、陸前高田市立気仙小学校に送ります。今年は、200kgです。
- ★ 小分け作業は、5年生・6年生が担当します。
- ★ メッセージは、全校児童一人一人が書き入れます。
- ★ 最後にみんなの思いを添えましょう。



気仙小のみんなから毎年メッセージが届きます

避難所開設訓練の概要



仙北中学校（初）

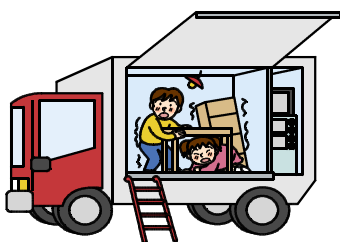
期 日	主な活動	訓練参加者
10月21日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト ・避難訓練 ・リラクゼーション ・避難所開設 (室内パーティション、野外テント) ・避難住民の受入 ・災害用炊飯袋を利用した炊き出し訓練 ・新聞紙を利用した食器（皿）、スリッパの制作 	全校生徒及び職員 184名 地域住民 66名 日本赤十字社仙北分区 20名 日本赤十字社職員、看護師 3名 中学生サミット関係 11名 市職員 22名 その他関係機関、来賓 等 総計約310名

平和中学校（4年目）

期 日	主な活動	訓練参加者
7月3日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・避難所開設 ・避難者受入 ・炊き出し訓練、食事の提供 ・AEDを使った救命訓練 	全校生徒及び職員、地域住民、 大仙市職員、消防署員 等

大曲中学校（3年目）

期 日	主な活動	訓練参加者
10月25日（火） * 地域合同防災 訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・煙道体験 ・高所救助訓練の見学 ・初期消火活動 ・地震体験車への乗車 ・避難所開設訓練 ・心肺蘇生、AEDの使い方等一次救命 処置訓練 ・炊き出し訓練 ・県総合防災課による講義、DVD視聴 	全校生徒及び職員 713名 P T A 会員 5名 若竹町住民 24名 大仙市大曲消防署職員 大仙市総合防災課職員 大仙市水道局職員 秋田県総務部総合防災課職員等



仙北中学校



平和中学校



大曲中学校



「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」 避難所開設訓練

大仙市立仙北中学校

1 ねらい

- (1) 災害時における避難所開設にあたり、生徒・教職員・市職員・地域住民が一体となって避難所運営を行うことができる。
- (2) 災害時を想定した具体的な活動に取り組むことを通して、避難所運営に関わる役割分担や協力・支援等の方法を学ぶ。
- (3) 地域の一員である中学生が自分の役割を自覚し、主体的に運営に参画しようとする態度を育む。

2 期 日 平成28年10月21日(金) 9:00~15:00

3 場 所 仙北中学校体育館、グラウンド

4 参加者 生徒162名、職員22名、地域住民66名、市職員22名、日本赤十字社仙北分区20名、
日本赤十字秋田県支部職員・看護師3名、その他関係機関5名、サミット生徒8名・引率3名
・・・総計約310名

5 想定内容

10月21日(金)午前9時頃、仙北地域を震源とする強い地震が発生し、大仙地域で震度6を記録した。生徒は全員グラウンドに避難し、無事であった。

しかし、仙北地域の家屋世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が避難することになった。倒壊を逃れた仙北中学校は、仙北支所長からの依頼を受け、避難所を開設することになった。生徒たちは地震に驚いているものの元気であり、避難所の開設・運営に協力することにした。

6 訓練の実際

◇10月21日(金)

時間	項目
9:00	地震発生・シェイクアウト
9:15	直ちにグラウンドに避難
9:25	被害状況の確認
9:30	リラクゼーション
9:35	避難所開設承諾
10:00	避難所開設準備開始 ・生徒会本部開設 ・各班役割分担 ・避難所開設打合せ



【グラウンドに避難】



【リラクゼーション】



【班長を中心に役割分担】



【生徒会本部打合せ】



【生徒会本部（校舎内）の設営】

【生徒の役割分担と活動の実際】

10:50	避難所開設 ・ テント張り ・ パーテーション ・ 炊事 ・ 受付 ・ 制作（紙皿・スリッパ）
11:00	避難者受付 ・ 紙皿・スリッパ制作で避難者と交流
12:00	昼食 ・ 災害用炊飯用袋を利用して米を炊き、カレーを食べる
12:45	全体会 生徒感想発表 講評：大仙市総合防災課 ：大仙市長
13:00	避難者帰宅

生徒の班活動の実際
 ○基本的に班ごとの動きとする。
 ○班は7～9人で編成。
 ○班長を中心に各活動の役割を決定する。
 ・ 避難者受付及び避難所案内(1～2人)
 ・ 職員駐車場でテント張り(1～2人)
 ・ 体育館でのパーテーション作成(3～4人)
 ・ 食事の準備(湯沸かし)・ゴミ回収(1～2人)
 ・ 新聞紙による紙皿・スリッパ制作(1～2人)
 (仕事の終わった生徒は速やかに体育館へ)



【体育館パーテーション】



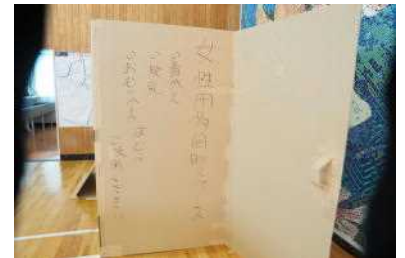
【テント居住スペース】



【避難者受付準備】



【炊事準備】



【女性用プライベート空間】

7 成果と課題

市防災課の講評の中にもあったが、「地域との絆・つながり」が強く意識された避難所開設訓練だったと思う。

基本的に職員は、生徒の傍らに助言者として控えているが、ほとんどが生徒会本部を中心とした生徒自らの発想、動きによって避難所を開設し運営していった。体育館では授乳する女性のためのスペースがほしいと段ボールを集める生徒。外のテントでは、寒さをしのぐ毛布を配りながら大きな声で避難者に声をかける生徒。足が痛いという避難者のために仲間を誘ってパイプいすを運ぶ生徒。習ったばかりのリラクゼーションとともに肩もみを避難者にしている生徒。地域とのふれあいを常に大切にする仙北中生らしい姿ばかりだった。防災意識の向上はもちろんだが、地域として災害をどうとらえ、どう対処していくか。自分には何ができるのかを考え、学ぶことができたと思う。そしてなにより、様々な場面で子どもたちが自ら考え、共に相談・協力して活動する北中生の自主性が磨かれた充実した活動であった。



【地域の方と新聞皿作成】



【本部による毛布配布】



【避難住民と共に食事】



【栗林市長による講評】



【生徒会本部主催の全体会】

最後に大仙市総合防災課の郡山防災危機管理監と栗林市長よりご講評をいただきました。



救護班（保健）

救護所を設置し、体調不良者への確な対応ができるよう備えた他、避難者が来校したら直ちに健康状態の確認・把握を行いました。



給食班（給食，学習，各班）

食料及び飲料水を確保し、炊き出しを行いました。また、各班と協力しながら避難者への食事の配給も行いました。



保健衛生班（JRC，整美）

トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行いました。ゴミの分別ができるようゴミ箱を作成し、設置しました。避難者へのマッサージ等も実施しました。

避難所開設・避難者受け入れ・初期対応

神岡地区自治防災組織へ引き渡し



救急救命講習会の実施（西分署の協力）

避難所開設訓練参加者を対象に、午後からAEDを使用する講習会を行い、緊急時の対応について研修しました。

H28年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 平成28年10月25日(火)

3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

4 参加者

大曲中学校生徒(713名)

教職員(60名) PTA会員(5名)

若竹町住民(24名) 大仙市大曲消防署

大仙市総合防災課 大仙市水道局

秋田県総務部総合防災課

5 実施内容

○訓練1 (地震避難…1～3年生・職員)

平成28年10月25日(火)午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続いたという想定である。非常放送で全校生徒に避難方法の指示があり、一斉に体育館に避難した。



○訓練2 (煙道避難訓練…1年生・若竹町民)

地震発生後、火災が発生し廊下が煙で充満したため視界が遮られたという想定である。煙道を通して避難した。



○訓練3 (高所救助訓練…1年生・若竹町民)

災害時、高所に取り残された人を救助する様子を見学する。



○訓練4 (初期消火活動…1年生・若竹町民)

火災発生後の初期消火活動として、水消器による消火活動を行った。



○訓練5 (県総合防災課による講義とDVD視聴

…2年生・若竹町民)

大仙市でM7クラスの地震が発生した場合の予想される被害状況や東日本大震災から学ぶ教訓などを考え、危機管理意識を高めた。



○訓練6 (地震体験…2年生・若竹町民)
地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。



○訓練7 (避難所開設…3年生・若竹町民)
「訓練1 (避難訓練：地震想定)」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示がきたことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練8 (心肺蘇生、AED等…3年生・若竹町民)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるように訓練した。



○訓練9 (炊き出し訓練…1～3年生 若竹町民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水にきたという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



6 訓練を終えて

今回の訓練を生かして、緊急時には地域、関係機関等とのネットワークを大切にし、その機能十分に果たして、安全に行動したい。



大仙市教育委員会

